

『ノアの日の如く』(マタイの福音書 24章 32-44節) 2020.7.12.

<はじめに> 「〇〇年に一度」の状況が毎年のように各地で発生し、もはや次はどこで災害が起こっても不思議ではないと聞きます。このような災害が起こるたびに、ノアの洪水とその後虹をしるしとされた神の契約に、私の思いは向かいます。「主よ、あの契約は今も有効ですよね」。

I ノアの日(37)

①箱舟と洪水(創世記 6-8章)

ノアは神から箱舟造りを命じられます。神が大洪水で地上のすべてのものを滅ぼし、箱舟に入るものだけが生き残ると決めたからです。ノア 600歳の時に大洪水が起こり、40日40夜雨が降り続け、箱舟は半年ほど漂い、彼らは1年2カ月後に箱舟から出られました。

②洪水と虹の契約(9:8-17)

地上に人の悪が増大し、神が人を造ったことを悔やまれ、大洪水に及んだのです。ノアは主の心になくなっていましたが、彼とその家族も大洪水を箱舟の中で忍びました。洪水後、神は、再び大洪水ですべてのものを滅ぼさないと、虹の契約を立てられました。

③さばきと救い

ノアの洪水は一方的な神の怒りで理不尽だ、と思われませんか。この世界は誰が支配しているのでしょうか。「主は救い」です。神は洪水が訪れる前からノアに箱舟を造らせ、救いの手を伸べておられます。いつの時代も神は私たちに救いの道を指し示されています。

II 人の子の到来とノアの日

①時のしるし(32-35)

24章は、弟子から質問された主イエスが世の終わる時のしるしを説いています(4-31)。世の終わりは人の子の到来(37)で、人の子とはイエス(=主は救い)です。数々の災い・惑わす者の動きに、主イエスの到来が近づいていることを感じ取らなければなりません。

②その日はだれも知らない(36-44)

ノアは箱舟を造りながら周囲の人々に、洪水が来るから箱舟に入るように説いていました。しかし人々は洪水が来るまで普通に生活しました。ノアの言葉を信じなかったからです。人の子の到来も同じように訪れます。その時を私たちは知らないのです。

③用心していなさい(42, 44)

「しかり、わたしはすぐに来る」(黙示 22:20)と主は言われます。そのしるしも顕著になって来ています。その時を予測できませんが、確実に近づいています。私たちにできることは目を覚まして、その時に備えること、「主は救い」を体現する方を待ち望むことです。

III 消え去らないもの(35)

①人が思い描く救い

自然災害、未知の病、気候変動、環境汚染、食糧問題、戦乱と民族紛争、人の心の闇が私たちを苦しめ悩ませ、生命の危機を感じさせます。主はこれらから私たちを守り、救い出して、生かしてくださいでしょうか。「天地は消え去ります」(35)と主は言われます。

②取られる者と残される者(40-41)

両者の違いは何でしょうか。本人が何かを為し、選択したから(あるいは、しなかったから)でしょうか。どちらになりたいですか。人類皆兄弟だから、その時に受け取るものも均一平等でしょうか。今、一緒に見えていても、主が来られる時には明確に二分されます。

③神の賜物である救い

消え去るものとそうでないものが混然しているこの世も、やがて人の子の到来でいつまでも残るものがはっきりします。救いは神のあわれみと恵みによる賜物で、人の行いによるものではありません。私たちは差し出された救いを信仰で受け取るのです(エペソ 2:8-9)。

<おわりに> この時代をうずまく問題課題から救う手立てと権威ある言葉を、人々は探し求めています。決して消え去ることのないことばは、主イエスです。この救い主イエスを信じる者は、やがての日に消え去るこの世から分けられて、御許に引き上げられます。(H.M.)